

## 南アルプス市立白根巨摩中学校 学校関係者評価書（前期）

白根巨摩中学校 第1回 学校関係者評価委員会

令和7年9月17日作成

実施日 令和7年9月5日（金） 午後5時～

会場 白根巨摩中学校 校長室

参加者 学校関係者評価委員 2名

浅利 司（元白根巨摩中校長）

内藤 永次（山梨中央銀行白根店長）

学校職員 4名

矢吹 和信（校長）

雨宮 文（教頭）

望月 真理（教務主任）

塩谷 茂美（生徒指導主事）

内容

### 1 学校から提案

- ・ 1学期の学校評価（自己評価結果）について
- ・ 生徒の現状について

### 2 協議されたおもな内容

領域別・評価項目別の自己評価考察について評価委員が考察を検討

学校関係者評価

### 1 全体評価

教職員アンケートでは、総合的な平均が4.7(A-5点 B-4点 C-2点 D-1点として平均を出したもの)となったことは、教職員一人一人の意識が高く、日々の実践が着実に行われている成果であると評価できる。また、生徒アンケート結果の総合平均も4.5であり、指標の4.0を大きく上回っており、生徒にとっても良い環境で取組が行われていることが伺える。

今後は、「子ども主体の授業づくり」をさらに推進し、生徒が学ぶことの楽しさを実感できるように日々の授業改善に取り組んでいく。その実感が家庭学習の充実へとつながるようにしたい。その際、ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図り、基礎学力の定着や深い学びへと導きたい。また、日々の生活面や行事面、部活動を通して、生徒の主体性を育て、全職員で連携しながら保護者や地域を巻き込みながら、たくましく生きていく力を育みたい。

### 2 出された意見

- ・ 先生方の自己評価が高いということは、巨摩中の先生方がとても良く意識して日々を過ごしている結果である。生徒の対応に丁寧にあたってもらっていることを感じた。

- ・「学校の授業は楽しいですか」「学校の授業がわかりますか」の平均得点が3.9、4.1となっており低いように捉えたようだが、AとBを合わせた肯定的回答は約8割である。とても良いと捉えてよいと思う。
- ・週末の課題や教科の宿題をもっと多く出しでもよいと感じる。高校に行くとさらに大量に宿題などが課せられる。そのギャップに悩んだわが子の経験からも、宿題の量を増やしていいと思う。
- ・白根巨摩中は以前より全校体制で週末課題に取り組んでいる。保護者も比較的肯定的に捉えてくれている。ただ、長期休業明けなどは宿題が終わっていないから学校へ行きたくない、という生徒もいるのは事実。一人一人の生徒の学力、家庭環境などによっても宿題の適量は異なるので、一概にもっと宿題を増やしたほうがいいとも言いきれない現状がある。
- ・毎日ある程度の時間、机に向かう習慣があるといいと思う。この勉強が自分のスキルを上げる、というようなことがイメージできるかどうかの差かもしれない。それを実際に体験しているかどうかは大人になってからも影響してくると感じる。
- ・大人になっても学ぶ習慣があるといいな、と感じる。仕事でも学ぼうとする力のある子の方が伸びる。仕事でも、がんばる子とがんばらない子では、どんどん差がつく。また、本人はがんばっていると言っても、他から見たらがんばっていないと見えることもある。
- ・学生の頃、がんばってきた子のほうが、やはり仕事もがんばれると思う。中学校を卒業した時にどんな人間に育ってほしいか、教員が願っている姿と生徒が実際に考えている理想がマッチしていけるようになるといい。
- ・子どもたちも先生たちも元気に過ごしていける巨摩中であってほしい。
- ・1日6時間、ただ座っていればいいという授業だけでなく、話し合ったり、学び合ったりという授業スタイルを工夫していくことが求められる。
- ・アンケートの中で子どもたちが、何をもって授業がわからない、つまらないとこたえたのかというところは気になる。一方で、アンケートにこたえている生徒が昨年度と同じ生徒ではないので、同じ尺度をもっているわけではないから、あまり数字を気にすることはないと思う。ただ、授業の工夫は、生徒の実態に合わせてやっていくべきものだと思う。
- ・できない子をどうやって引き上げていくか、課題である。
- ・生徒の結果と教師の結果のギャップのあるところや受け取り方の違うところがあったら、そこは大切に振り返り、分析することで、今後の学校づくりにつなげていってほしい。

### 3 特記事項

次の3点について今後も学校経営の課題として取り組んでいく。

- ① 子ども主体の学びへの転換を着実に図る
- ② 家庭学習の充実を図る
- ③ 将来に渡り生きて働く力の育成を図る

記載責任者

白根巨摩中学校 学校関係者評価委員会 委員長 浅利 司  
副委員長 吉田 稔

